

# Management Message



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成19年3月期中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)の株主通信をご高覧いただにくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社は平成18年5月に策定しました中期経営計画『FORWARD(フォワード)08』に基づき、「グループ総力をあげての成長を図り、新たな事業付加価値の増大を目指す」ことを最重要テーマとして、情報機器事業およびオプト事業を中心とした事業強化に取り組みました。

当中間期の連結売上高は4,939億円となりました。事業終了の過程にあるフォトイメージング事業の大幅な売上減少によって、グループ全体としては前年同期比4.6%の減収となりましたが、販売好調なカラーMFP(多機能複写機)や需要拡大が続く液晶偏光板用保護フィルム(TACフィルム)など、当社の主力商品の売上拡大が牽引し、連結営業利益は462億円(前年同期比17.4%増)、連結経常利益は448億円(同27.3%増)、連結中間純利益は225億円(前年同期は34億円の損失)となり、いずれも過去最高益となりました。

一方、フォトイメージング事業につきましては、平成18年3月末をもってカメラおよびミニラボにかかる事業活動を終了し、フィルムおよび印画紙につきましては平成19年9月末までにすべての事業を終了する計画に沿って、国内外の事業所において事業終了の諸作業を進めております。

このフォトイメージング事業の終了決定に伴い、平成17年度において多額の特別損失を計上したため、当中間期の配当につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただきました。しかしながら、情報機器事業ならびにオプト事業を中心にグループ業績は着実に向上し、平成18年度は前期を上回る業績を計上できる見通しとなりましたので、当期末配当としては1株につき年10円の配当をお支払いする予定といたしました。

当下期における当社グループを取り巻く経営環境は、予断を許さない状況が続くものと思われますが、グループの総力をあげてさらなる業績向上に取り組んでまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成18年12月

代表執行役社長 太田 義勝